



T O M O K O K I T A J I M A

環境省環境保健部長

## 北島 智子

- 平成4年 文部省学校健康教育課(学校保健・学校健診)
- 平成6年 山梨県健康増進課長(母子・精神・老人保健等)
- 平成9年 厚生省児童家庭局母子保健課(母子保健・周産期医療・生殖補助医療)
- 平成11年 青森県健康福祉部次長・部長(保健・医療・福祉対策)
- 平成14年 医政局指導課医療計画推進指導官(医療計画、救急医療対策)
- 平成23年 新潟県副知事(保健・医療・福祉、雇用、教育、文化、防災等)
- 平成25年 精神・障害保健課長(精神保健・医療・福祉)
- 平成26年 現職

### 医系技官としてのキャリアを振り返って

厚生労働省や自治体での仕事を経験する中で、文部省(現文部科学省)では学校健診の見直し、医政局指導課ではAEDの普及、前立腺癌等に対する小線源刺入療法の導入、精神障害・保健課では精神障害者の地域生活への移行など、やりがいのある仕事に携わることができました。各部署でそれぞれ思い出に残る仕事に出会えたこと、それらの仕事を通じて多くの方々に出会えたことに感謝しています。

### 昭和61年 埼玉県医員時代

自治体勤務としては、厚生労働省入省前に埼玉県で勤務したのを皮切りに、山梨県の課長、青森県の次長、部長、そして新潟県の副知事と計4回、10年近く経験しました。埼玉県大宮保健所では感染症対策を担当し、住民から聞き取り調査を行ったり、市役所とともに消毒に行ったりと、毎日が直接住民と接する仕事でした。また、精神保健の仕事では、患者さんの搬送なども担当しました。この時の経験が、自分の行政官としての原点だと思っています。

### 平成6年 山梨県課長時代

山梨県の課長時代は、県内に日本で唯一、日本住血吸虫病(地方病)の汚染地域が残されていましたが、関係の市町村長さんたちの協力を得て、地方病の安全宣言を行うことができました。この頃、県内でオウム真理教の問題が発生し、県庁は本当に大変でしたが、貴重な経験となっています。

### 平成11年 青森県次長・部長時代

青森県では、健康福祉部の次長と部長を経験しました。次長時代は県立高等看護学院の院長も兼ねており、教員としての仕事も担当させていただきました。学生たちの国家試験を心配したり、一人一人に卒業証書を渡したりと、子どもたちからたくさんのお礼をもらいました。また、県の部長時代には総合周産期母子医療センターの立ち上げに携わり、その後、青森県の乳児死亡率がワースト1から大きく改善されたことは、行政官をやっている本当にうれしかった思い出の一つです。

### 平成23年 新潟県副知事時代

新潟県には副知事として2年3ヶ月勤務しました。厚生労働省や自治体勤務で担当した保健、医療、福祉、教育に加え、雇用対策、文化、スポーツ、防災など幅広く担当させていただきましたが、中でも、新潟県の医師不足は深刻で医師確保は喫緊の課題でした。そうした中で、特に医療資源が不足している地域において救急医療体制の強化を図るため、地域医療の再編を担当することになりました。青森県で医師不足問題を担当したことや、厚生労働省の医政局指導課と総務課で医療計画や救急医療、医療安全などを担当した経験が役立ちました。就職するまで東京を離れたことがありませんでしたので、4回の自治体勤務の経験を通じて、それぞれの地域における課題や対策を知ることができたことは、厚生労働省で行政の仕事をする上で、とても勉強になりました。また、仕事のみならず、各地域の自然や食を楽しむことやそこで暮らす人々の暮らしに触れることができたことは本当に貴重な経験になりました。当時の仲間とは、今でも一緒にスキーを楽しんでいます。

### 平成25年 精神・障害保健課長時代

医学部卒業時、精神科医になりたいと考えていたこともあり、精神・障害保健課長を経験できたことは、とてもうれしく良い経験でした。精神障害者に対する施策は、近年、前進してきているものの、他の障害者に比べると福祉施策の歴史が浅く、現在も約20万人にのぼる長期入院精神障害者があり、高齢化に伴って、社会に戻れないまま病院で亡くなる方も増えています。こうした課題に対し、検討会を立ち上げ、様々な立場の方々にご議論いただき、今後の方向性を示していただきました。この他にも、東日本大震災の被災者等に対する心のケア、アルコール・薬物・ギャンブル依存症対策、医療観察法による入・通院医療、心理職の国家資格化など仕事も山積していましたが、課員総勢40人余りで、本当にみんな頑張ってくれました。